

# ネパールに継続支援を

AMDA・菅波代表ら帰国会見

## 物資やストレス対策訴え

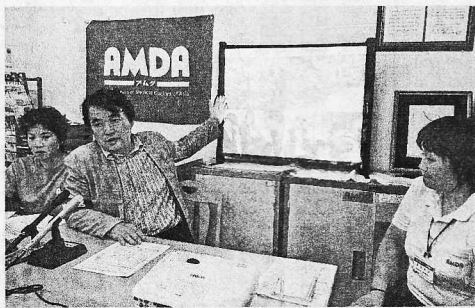
ネパール大地震の被災者に対する緊急救援を行った国際医療ボランティアAMDAの菅波茂グループ代表ら3人が帰国し、10日、岡山市北区伊福町の本部事務所で会見した。4月25日の発生から2週間が経過した現在も支援が届いていない地域があることなどを報告、継続的な活動の必要性を訴えた。

菅波代表のほか、マレーシアに設けている事務所の所長大政朋子さん(43)と看護師柴田幸江さん(37)＝岡



被災地域で診療に当たる菅波代表。奥には崩壊した家屋が見える＝AMDA提供

山市が出席。大政さんと柴田さんは発生翌日、菅波代表は4月30日に出発し、首都カトマンズ近郊の被災地を中心に、簡易診療所の立ち上げをはじめ、診療活



現地の様子を説明する(左から)大政さん、菅波代表、柴田さん

動や物資配達などを行い、9日に帰国した。

菅波代表は「住民は余震におびえ、建物の外で生活。ストレスや今後の不安から自殺者も出ている」と説明。山間部では山崩れが相次ぎ、支援が行き届かない集落もあるとした。大政さんと柴田さんは「最初の3日間は混乱状態で、通信もままならず情報が入って来なかった」と被災直後の厳しい状況を振り返る一方で、「再び海外からの観光客を受け入れようと、復興に向けて頑張る姿が印象的だった」と語った。

AMDAでは支援の継続が必要とし、菅波代表は、

6月からの雨期に備えたテントの支給や、数が足りていない理学療法士の確保、ストレス対策などを取り組むの重点に挙げ「現地の保健省、医師会などと連携していきたい」と述べた。

よると、国内や近隣国を合わせた死者は8千人を超え、負傷者は約1万7千人、全半壊した建物は約56万戸とされる。AMDAの救援活動の第5陣として10日、新たに医師や看護師ら5人が現地へ出発した。

ネパール警察当局などに

(三宅信行)